

# 美羽

№ 11 20 Ⅱ, 1980

百万石蝶談会

HYAKUMANGOKU-TYÖDANKAI

## 金沢市のアゲハチョウ科

—— 諸道 秀人 ——

翔羽5号に吉村夕貴氏の名著ゼフィルス特集号がありますが、その緒言において、県内の蝶の特集を望む声がありました。

その声に少しなりとも答えたく思い、乏しい資料の中よりまずアゲハチョウ科について編集しました。

また、内容については、幼生期に重点をおいておるので、飼育に役立てて下さい。

金沢市に産するアゲハチョウ科の蝶類は、ウスバシロチョウ、ギフチョウ、アオスジアゲハ、ジャコウアゲハ、ナミアゲハ、キアゲハ、クロアゲハ、オナガアゲハ、モンキアゲハ、カラスアゲハ、ミヤマカラスアゲハの11種に及ぶ。

### 1. ウスバシロチョウ

分布：金沢市では低山帯に多く、湯涌・横谷・刀利ダム・樫見・天池・倉ヶ獄・大平沢・後高山が知られており、個体数では、刀利ダム・横谷で著しく多く、100頭は採れる。

成虫：日本海側特有の非常に黒化した個体である。  
この蝶は、食草の必ずしも近付にいるとはかぎらず、刀利ダムの発生地では、食草は見あたらない。

卵：金沢市では、未確認。  
放卵研紙で、人工採卵は容易である。

食草：ムラサキケマン（ケシ科）。鶴来町八幡町では、ムラサキケマンで数十頭採られている。また松本和馬氏によれば

大平沢では、エンゴサクが食草であるといわれている。

幼虫：飼育されていないので未知であるが、ムラサキケマンの根本にいるという。

蛹：未確認。今後の研究が待たれる。

発生経過：金沢では5月より出現するが、統一された経過の研究を望みたい。

## 2. ギフチヨウ

分布：金沢市に普通。

成虫：2時頃までは低く飛ぶが、気温の上昇にしたがって、高い所を飛ぶ。

食草：ツマのズグサ科のカンアオイ類。ところによりウスバサイシン、フタバアオイ。

卵：新葉に数卵～数十卵ずつ産付されるが、特に古葉に産付されることもある。

幼虫：亜終令より、食草を大量に食するので、飼育には20頭ぐらいを限度にすることを、お薦めする。

蛹：自然状態では不明。

発生経過：その年の降雪量に左右されるが、金沢市では早くて3月下旬より発生し、4月上旬～中旬が最盛期である。

変異：金沢では、10～20年ぐらいま乏の成虫個体はかなり小さかったが、最近の個体は普通。食草の生育状態、または蛹越冬における降雪量、湿度等に影響をうけるのかは、不明。

## 3. アオスジアゲハ

分布：金沢市内に広く分布していて、都市中心部にも多い。

食草：クス科のタブノキが、自然状態での食樹である。この木は神社境内に多い。その他人家に栽培されているクスノキ、ヤブニツケイも食樹となるが、市内に広く分布している。シロダモは食樹とはならない。

卵：例外なく新芽に1卵づつ産む。ただし、芽の少ない夏・秋には、少ない芽に産卵が集中し、卵群を形成する。

幼虫：弱令幼虫は、新芽や新葉の葉裏に多く、色彩は黒色。終令に近づくにつれて緑色を帯び、葉表に台座をつくり静止する。

蛹：成葉の葉裏に蛹化する。

発生経過：年数回発生するが、金沢市での化数は不明。

#### 4. ジャコウアゲム

分布：金沢市では希であるが、瀬戸・熊走で記録が多い。この種は放浪性が強く、急に発生し、急に消滅する。

食草：ウマノスズクサ科のウマノスズクサ

卵：食草の芽や葉裏に数卵づつ産卵されている。春先は未受精卵が多い。

幼虫：1令では毛虫、2令より4令まで赤紫に白帯の特徴ある姿で、終令では黒色に白帯と、赤色に白帯の2型ができるが、後者は6~8月の高温期に直射日光のあたる地域の食草を食べる幼虫に発生する。

幼虫は、中令まで葉裏に群棲していて、幼虫は茎を残さず食べるが、共食いの習性はない。

成虫：本種は、放浪性が強い。

発生経過：4月下旬より発生、年3回発生するのが普通。

寄生天敵としてヒメバチが、観察されるが、よく自立つ幼虫の割には、島による減少がない。

## 5. ナミアゲム

分布：都市部から田園地帯に多いが、低山地にも発生する。

食草：ミカン科の柑橘類・サンショウ・カラダチ・アサクラザンショウ・カラスザンショウ

卵：新芽（ミカン類）・葉裏（カラスザンショウ）に1卵づつ。日当りのよい植樹に多い。

幼虫：食樹の葉表に静止する。

蛹：食樹や他の樹木、人家の軒下などに蛹化する。

発生経過：年3回以上発生する。天敵としてはヒメバチ・コバチが知られている。

## 6. キアゲム

分布：白山より平地にかけ普通。

食草：山地ではシシウド等の大型のセリ科植物を食するが、平地ではセリ科のニンジン・ミツバ・セリ・パセリ・セロリ等を食している。

卵・幼虫・蛹・発生経過：基本的にナミアゲムと等しい。

## 7. クロアゲム

分布：低山に広く分布するが、モンキアゲムの分布拡大により、しだいに減少していて、窪の九万材神社の山頂付近が唯一の多産地。

食草：ミカン科のカラダチ・ミカン類・イヌザンショウ・カラスザンショウ

卵：カラスザンショウの場合は、新芽・葉裏に1卵づつであるが、他の樹では、幼茎・細枝に1卵づつ産む。

幼虫：葉表・莖・幹・トゲ(ユズ)上に静止するが、ナミアゲムと異なり日陰を好む。

本種の幼虫形態は、オナガアゲム、モンキアゲムとよく似ているが、弱令では、オナガアゲムとは明白に、モンキアゲムとは、モンキアゲムのように黄色を帯びない点で区別できる。終令では眠状紋を連結する帯が黒色で、腹部がピンク色を呈し、臭角が黄色であるオナガアゲムと、腹部の帯が、白紫色を呈するモンキアゲムと区別できる。

蛹：カラダチでは、トゲの間に蛹化することがあるが、主に他の樹木に移動する。

発生経過：年3回程度の発生と思われる。

## 8. オナガアゲム

分布：樺見・大平沢・東市ノ瀬・鶴来坂尻町・芽原・国見の各地に多く、利ダム近辺にも多い。

食草：ミカン科のアサクラザンショウ・コクサギ・カラスザンショウに幼虫が得られたが、コクサギに圧倒的に多く、アサクラザンショウ3頭、カラスザンショウ1頭である。キムダヤミカン類でも飼育可能。

卵：日陰の下枝の葉裏に1卵づつ。発見は困難。

幼虫：日陰の下枝に多い。最高は、1m 50cmで幼虫が見つかったいるが、常に50cm以下の地表近くにおいて、枝上・幹上に静止していることが、発見を困難にしている。

蛹：大木では、幹上に、多くは、コクサギが低木のため周辺の他の木に移行する。

## 9. モンキアゲム

分布：暖地性の本種は、北上が進み、石川県下でも平地から山地にかけかなり多く、完全に土着し、食樹の関係からクロアゲム等に影響を及ぼしている。

食草：ミカン科のミカン類・カラダチ・カラスザンショウ・キハダ・コクサギ・カラスザンショウに多い。

卵：常に葉裏・新芽に産まれ、ミカンの場合でも幹に産まれることは希である。

幼虫：葉表に静止していて、木陰の幼木や下枝に多い。

蛹：大木につく場合は、枝上で蛹化するとと思われる。

発生経過：年3回以上発生しているのか、2回なのかは不明であるが、6月以後連続的に11月まで見られる。  
カラスアゲムと同種のヒメバチの寄生もうけやすい。

## 10. カラスアゲム

分布：低山より広く分布している。

食草：ミカン科のコクサギ・キハダ・カラスザンショウ・イヌザンショウ・アサクラザンショウであり、コクサギに多い。  
ミカン類でも飼育可能。

卵：下枝の葉裏に1卵づつ。発見は困難。

幼虫：日陰の下枝に静止するが、成長するにつれて上部に上昇する性質を持つ。初令〜3令までは、体色が著しく不揃いで、ミヤマカラス並みの体色を持つものがあるが、4令では例外なく緑色となり、これはコジヤノメと似ている。  
終令においてはその体色には著しい変異がある。

蛹：緑色型の場合は、休眠・非休眠の区別がよくつき、休眠型蛹の出る確率が高い。

発生経過：年2〜3回発生。ヒメバチ・ハエの寄生をうける。  
ハエの場合は、♀〜5頭脱出し、寄生された蛹は黒点を現出する。ハチの場合は、著しく小さい蛹となる。

## 11. ミヤマカラスアゲム

分布：山間部に多く、横谷・刀利ダム・赤津・白尾・見定には、多産する。

食草：ミカン科のキハダに多いが、カラスザンショウでも得られる。

卵：食樹の葉裏に1卵ずつ産む。低木には産卵しない。

幼虫：3令まで黒色。4令では、5令へ3令の中間的模様をとつが、これはキアゲムに似ている。

幼虫は、終令まで葉表にいるが、下枝には少い。キハダは大木になり、幼木が少ないので幼虫採集は困難。刀利ダムでは、少いが確実に幼虫が採れる。

蛹：樹上で蛹化するものが多いと思われる。

発生経過：年2〜3回発生。カラスアゲムより早く発生する。

以上、金沢市周辺に見られるアゲムチョウ科についての筆者の所見を解説した。文中の解説は、分布・成虫・卵・食草・幼虫・蛹・発生経過等の項目に分けて記した。分布については、飼育を中心に書いたために内容的に乏しい結果に終わったが、他の会員の方による記録に委ねたい。

なお、本稿に対する御意見、異論等がありましたら筆者まで御一報下さい。

## Papilio 属の食草

諸道 秀人

### 1. イヌザンショウ

医王山に数本あるが、ザンショウを荒くした感じで、トゲは不規則。

### 2. アサクラザンショウ

ザンショウのトゲのない品種で、日陰の本種には、オナガアゲ

ハヤカラスアゲハが多く産卵する。

### 3. キハダ

金沢市では、  
能登や倉ヶ嶽  
・刀利ダム・  
横谷・医王山  
に多く、高木  
に生るため、  
ミヤマカラス  
アゲハの幼虫  
採集等は難し  
い。

その他、カ  
ラスアゲハや  
オナガアゲハ  
も採集される。  
写真は倉ヶ  
嶽産のキハダ



キハダ

カラスザンショウ

### 4. カラスザンショウ

金沢市内に  
は広範囲に分  
布している。

モンキアゲ  
ハの幼虫が多  
いが、カラス  
アゲハ、クロ  
アゲハが少い  
ながら採集で  
き、うまくす  
ると、ミヤマ  
カラスアゲハ

、オナガアゲハが採集可能である。  
写真は、産産のカラスザンショウ。





## 5. コクサギ

金沢市では  
東市ノ瀬・芽  
原・小原・檜  
見・国見・大  
平沢・天池に  
多い。

本種では、  
カラスアゲム  
・オナガアゲ  
ムの幼虫が、  
ドバツと採集  
できる。

写真は鶴来  
町坂尻町のコ  
クサギ。



## 会員の動き

12月0日、野中、松本、井村の3氏は、滋賀、三重の県境あたりをウロウロしたとか。同メンバーで、東北・関西方面へも足をのばし、省エネ運動に反抗したとか？ 成果は、ないしよ。

諸道氏は、0月0日、この寒いのにバイクを馳せ、白見谷へ。努力のかいあって、オナガシジミの卵を7個せしめた。

八木橋氏は、冬休み中青森へ帰郷された。アイノやツラジロを捜すべく、アチコチ挑戦したが、雪不足のせい、雪が多かったせい、失敗したとか。さちろんオサムシ類も、とってもとってとだそうす。

1月12日、嵯峨井宅の玄関で休眠中の蛹より Puziloi 1 個が羽化、暖冬のせいで管理の悪さを暴露してしまった。

嵯峨井は、取場の新春麻雀大会に出場。名馬子ヨウキ子ホマレは垂戦したにもかかわらず、激賞を振って入賞を運した。

## 全国・国公立大学共通一次試験問題より

本会の会員の大半は既に大学卒あるいは、在学中でほとんどの人は無関係のようであるが、1月12日に実施された全国国公立大学共通一次試験の国語の才立問題を解いた人はいますか？

光瀬龍「ロン先生の虫眼鏡」よりの24行の小文に対する問題6問中、問3の「私の免罪符でもあり、踏み絵でもあった」とあるが、そこにうかがわれる筆者の気持としては、次のどれが最も適当か？という問題が編集子にとって、大変印象的であった。

## TV番組「旅立ちは愛か」PART 2

同番組もいよいよ佳境に入り、まもなく番組終了と聞いている。ギラギラのカトマンズアゲムも何度も画面に出てきたが、見てない人は「月刊むし」107号の表紙を見て下さい。表紙解説も忘れずに。巻の噂では、大浦六宏演ずる役は、まさにまさにピッタリだね？

## 「諸道氏への連絡TEL番号変更のお知らせ」

⇒ 22-3567

翔No.11は諸道氏オ・プレートです。これに刺激されて他の方より他の種についての原稿の提出を期待します。(編集子)

## 目次

金沢市のアゲムチョウ科	諸道秀人	1
Papilio属の食草	諸道秀人	7
会員の動き		9
全国国公立大・共通一次試験問題より		10
TV番組「旅立ちは愛か」PART 2		10

翔 No. 11

1980年2月20日

発行：金沢市三口新町4-9-37 松井正人方  
百万石蝶談会

編集：嵯峨井 淳郎